

2023年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2022年10月28日

上場会社名 養命酒製造株式会社 上場取引所 東・名
 コード番号 2540 URL <https://www.yomeishu.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 塩澤 太朗
 問合せ先責任者 (役職名) 上席執行役員 (氏名) 井川 明 (TEL) 03-3462-8138
 経営企画部長
 四半期報告書提出予定日 2022年10月31日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第2四半期の業績 (2022年4月1日~2022年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	5,163	6.9	660	34.9	873	27.6	613	31.7
2022年3月期第2四半期	4,829	2.3	489	93.4	684	52.7	465	55.3

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	44.45	—
2022年3月期第2四半期	33.82	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第2四半期	48,503	42,122	86.8
2022年3月期	48,614	42,179	86.8

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 42,122百万円 2022年3月期 42,179百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	—	—	40.00	40.00
2023年3月期	—	—	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	45.00	45.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の業績予想 (2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,910	3.1	1,010	1.4	1,370	0.6	1,000	5.3	72.45

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 有

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2023年3月期2Q	16,500,000株	2022年3月期	16,500,000株
------------	-------------	----------	-------------

② 期末自己株式数

2023年3月期2Q	2,686,102株	2022年3月期	2,708,777株
------------	------------	----------	------------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

2023年3月期2Q	13,801,692株	2022年3月期2Q	13,779,177株
------------	-------------	------------	-------------

(注) 当社は「役員報酬BIP信託」を導入しており、当該信託が保有する当社株式は、期末自己株式数及び期中平均株式数の算定上控除する自己株式に含めております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予想情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計上の見積りの変更)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間(2022年4月1日から2022年9月30日まで)におけるわが国経済は、ウィズコロナの新たな段階への移行が進む中、景気を持ち直しが期待されるものの、物価上昇や供給面での制約に加え、金融資本市場の変動の影響等から依然として厳しい状況が続いており、先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような状況の中で当社は、経営理念「生活者の信頼に応え、豊かな健康生活に貢献する」の下、事業ビジョン「すこやかでより良い時間を願う人々を応援する」に基づき、中期経営計画(2022年4月～2027年3月)において、「次の100年に向けた成長投資と持続的成長基盤の確立」を基本戦略と定め、「養命酒」及び酒類・食品の卸売販売を中心とする既存事業の収益力強化(深化)と、これまで取り組んできた「くらすわ」ブランドを中心とした新たな事業基盤の構築(探索)を同時に行う「両利きの経営」を推進し、収益性を確保しつつ成長投資を行い、新たな企業価値の創造に取り組んでおります。

当第2四半期累計期間の業績は、「養命酒」が堅調に推移したこと及び「くらすわ」の各店舗において来客数が回復しつつあることにより売上高は5,163百万円(前年同四半期比6.9%増)、営業利益は660百万円(前年同四半期比34.9%増)、経常利益は873百万円(前年同四半期比27.6%増)、四半期純利益は613百万円(前年同四半期比31.7%増)となりました。

セグメント別には以下のとおりです。

第1四半期会計期間より新中期経営計画を策定したことに伴い、従来の「養命酒関連事業」の単一の報告セグメントから、「養命酒関連事業」、「くらすわ関連事業」の2区分に変更しております。

なお、前第2四半期累計期間のセグメント情報は、新中期経営計画に基づく組織変更により、必要な財務情報を遡って作成することが実務上困難であるため、前年同四半期比情報は記載しておりません。

<養命酒関連事業>

養命酒関連事業の売上は、国内「養命酒」が堅調に推移したほか、酒類・食品では「クラフトジン」、「養命酒製造クロモジのど飴」に加えて「養命酒製造の黒酢」が寄与、海外(海外「養命酒」を含む国外販売)では、マレーシア、シンガポールにおいて「養命酒」の売上が回復傾向にあり、売上高は4,678百万円となりました。

国内「養命酒」につきましては、引き続きテレビCMや新聞等の広告を実施しました。営業活動については、卸店やドラッグストア等主要販売チャネルである小売店と協働した売り場づくりによって継続的に露出を高めたことにより、売上高は3,896百万円となりました。

酒類・食品の売上高は370百万円、海外の売上高は213百万円、不動産賃貸・太陽光発電の売上高は198百万円となりました。

<くらすわ関連事業>

くらすわ関連事業の売上は、店舗では新型コロナウイルス感染症の影響を受け減少していた来客数が回復しつつあります。通販では「五養粥」、「和養生にゅうめん」等のくらすわブランド商品を中心に引き続き堅調に推移しました。また、郵便局等を通じたカタログ販売の拡大に取り組み、売上高は484百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べ110百万円減少し、48,503百万円となりました。これは主に投資有価証券及び関係会社株式に含まれる保有株式が時価評価等により124百万円減少したことによるものであります。

負債は、前事業年度末に比べ54百万円減少し、6,380百万円となりました。これは主に未払法人税等が96百万円増加した一方で、流動負債のその他に含まれる未払金が126百万円、固定負債のその他に含まれる繰延税金負債が36百万円それぞれ減少したことによるものであります。

純資産は、前事業年度末に比べ56百万円減少し、42,122百万円となりました。これは主に四半期純利益613百万円の計上及び配当金554百万円の支払により利益剰余金が59百万円増加した一方で、その他有価証券評価差額金が162百万円減少したことによるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前事業年度末に比べ82百万円増加し、2,515百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、864百万円の収入(前年同四半期比34.5%増)となりました。これは主に税引前四半期純利益879百万円、減価償却費248百万円等の増加要因と、法人税等の支払額172百万円等の減少要因によるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、228百万円の支出(前年同四半期比23.0%減)となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出172百万円、無形固定資産の取得による支出74百万円等によるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、553百万円の支出(前年同四半期比0.5%増)となりました。これは主に配当金の支払いによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社は、2022年10月11日に2023年3月期第2四半期(累計)業績予想の修正を行いましたが、通期(2022年4月1日から2023年3月31日まで)の業績予想につきましては、2022年5月11日に公表いたしました業績予想に変更はありません。業績予想の修正が必要となった場合には速やかに公表いたします。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,892,696	6,975,552
売掛金	2,425,162	2,438,715
商品及び製品	427,654	502,093
仕掛品	143,031	140,105
原材料及び貯蔵品	885,429	904,345
その他	109,448	195,340
流動資産合計	9,883,422	11,156,153
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	4,138,352	4,060,579
その他(純額)	3,816,486	3,768,147
有形固定資産合計	7,954,839	7,828,727
無形固定資産		
投資その他の資産	142,082	133,986
投資有価証券		
投資有価証券	21,445,377	21,355,705
長期預金	6,700,000	5,700,000
その他	2,496,760	2,337,059
貸倒引当金	△8,340	△8,340
投資その他の資産合計	30,633,798	29,384,425
固定資産合計	38,730,719	37,347,138
資産合計	48,614,142	48,503,292
負債の部		
流動負債		
買掛金	122,282	185,361
未払法人税等	163,871	260,869
賞与引当金	248,411	218,908
その他	1,339,957	1,129,654
流動負債合計	1,874,521	1,794,793
固定負債		
役員退職慰労引当金	48,350	48,350
その他	4,511,657	4,537,383
固定負債合計	4,560,007	4,585,733
負債合計	6,434,529	6,380,526

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2022年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,650,000	1,650,000
資本剰余金	724,666	724,666
利益剰余金	38,496,820	38,555,892
自己株式	△4,872,450	△4,826,091
株主資本合計	35,999,037	36,104,467
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	6,180,576	6,018,297
評価・換算差額等合計	6,180,576	6,018,297
純資産合計	42,179,613	42,122,765
負債純資産合計	48,614,142	48,503,292

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
売上高	4,829,378	5,163,041
売上原価	1,804,310	1,900,686
売上総利益	3,025,068	3,262,354
販売費及び一般管理費	2,535,241	2,601,465
営業利益	489,826	660,889
営業外収益		
受取利息	24,830	24,991
受取配当金	160,462	181,847
その他	18,107	15,569
営業外収益合計	203,399	222,408
営業外費用		
支払利息	8,018	9,245
その他	359	201
営業外費用合計	8,378	9,447
経常利益	684,847	873,850
特別利益		
固定資産売却益	—	10,926
特別利益合計	—	10,926
特別損失		
固定資産除却損	10,087	5,529
その他	303	—
特別損失合計	10,391	5,529
税引前四半期純利益	674,456	879,247
法人税、住民税及び事業税	157,000	266,000
法人税等調整額	51,469	△283
法人税等合計	208,469	265,716
四半期純利益	465,986	613,531

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	674,456	879,247
減価償却費	279,424	248,940
賞与引当金の増減額(△は減少)	△11,683	△29,503
受取利息及び受取配当金	△185,292	△206,839
支払利息	8,018	9,245
有形固定資産売却損益(△は益)	303	△10,926
固定資産除却損	10,087	5,529
売上債権の増減額(△は増加)	△51,459	△13,553
棚卸資産の増減額(△は増加)	22,372	△90,430
仕入債務の増減額(△は減少)	27,944	63,078
未払費用の増減額(△は減少)	△24,491	33,089
未払消費税等の増減額(△は減少)	△17,244	△28,985
その他	15,001	△12,592
小計	747,437	846,302
利息及び配当金の受取額	184,983	206,645
利息の支払額	△13,668	△15,162
法人税等の支払額	△275,967	△172,992
営業活動によるキャッシュ・フロー	642,784	864,793
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△2,100,000	△1,100,000
定期預金の払戻による収入	2,100,000	1,100,000
有形固定資産の取得による支出	△289,419	△172,138
有形固定資産の売却による収入	127	18,060
無形固定資産の取得による支出	△7,688	△74,695
投資有価証券の取得による支出	△87	△88
その他	380	380
投資活動によるキャッシュ・フロー	△296,688	△228,481
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	600,000	600,000
短期借入金の返済による支出	△600,000	△600,000
自己株式の取得による支出	△98,192	△251
自己株式の売却による収入	98,180	—
配当金の支払額	△550,801	△552,813
その他	△153	△461
財務活動によるキャッシュ・フロー	△550,967	△553,526
現金及び現金同等物に係る換算差額	790	70
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△204,080	82,855
現金及び現金同等物の期首残高	2,575,338	2,432,696
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,371,257	2,515,552

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

(退職給付に係る会計処理の数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理年数の変更)

退職給付に係る会計処理の数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理年数について、従来、従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数として15年で費用処理をしておりましたが、平均残存勤務期間がこれを下回ったため、第1四半期会計期間の期首から費用処理年数を12年に変更しております。この結果、従来、費用処理年数による場合に比べ、当第2四半期累計期間の営業利益、経常利益及び税引前四半期純利益は、28,734千円減少しております。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

前事業年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積りの仮定について、重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

当社は、「養命酒関連事業」の単一の報告セグメントとしており、その他の事業については、重要性が乏しいため、記載を省略しております。

II 当第2四半期累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	養命酒 関連事業	くらすわ 関連事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	4,538,777	484,237	5,023,015	—	5,023,015
その他の収益	140,025	—	140,025	—	140,025
外部顧客への売上高	4,678,803	484,237	5,163,041	—	5,163,041
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	4,678,803	484,237	5,163,041	—	5,163,041
セグメント利益又は損失(△)	1,497,535	△85,166	1,412,368	△751,479	660,889

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△751,479千円は、主に報告セグメントに配分していない一般管理費等の全社費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社は、2023年に創立100周年を迎えるにあたり基本戦略を「次の100年に向けた成長投資と持続的成長基盤の確立」と定め、「養命酒」及び酒類・食品の卸売販売を中心とする既存事業の収益力強化(深化)と、これまで取り組んできた「くらすわ」ブランドを中心とした新たな事業基盤の構築(探索)を同時に行う「両利きの経営」を推進する中期経営計画(2022年4月～2027年3月)を策定しました。これに伴い、第1四半期会計期間において、報告セグメントを従来の「養命酒関連事業」の単一の報告セグメントから、「養命酒関連事業」、「くらすわ関連事業」の2区分に変更しております。

なお、前第2四半期累計期間のセグメント情報を当第2四半期累計期間の報告セグメントの区分方法により作成した情報については、新中期経営計画に基づく組織変更により、必要な財務情報を遡って作成することが実務上困難であるため、開示しておりません。

また、前第2四半期累計期間のセグメント情報は単一の報告セグメントであることから、前第2四半期累計期間の区分方法により作成した当第2四半期累計期間のセグメント情報の記載は省略しております。